

# 教宣速報

第4号 2005年1月17日  
全損保日勤外勤支部 神戸分会

## 阪神淡路大震災から 10 年

1995年1月17日午前5時46分「ゴオー」と地響きの後、約20秒で最愛の子供・妻・親・友人、そして多くの人々が亡くなりました。今まで築いてきた生活の場を一瞬の間に失くしてしまいました。

当初震災を受けた人々は、あまりにも厳しい現実、これは夢であってほしいと願いました。しかし、神戸分会組合員自らも被災したなかで、毎日顧客先へ異動、解約、保険金支払い手続きに、明日への不安を感じながら走り回りました。

支部執行部は組合員の切実な思いを受け、生活支援のため、ねばり強い交渉を重ね、さらに全国の仲間からも多くの義援金、励ましの寄せ書きや手紙をいただきました。私たちは、みなさんの厚意が温かく心にしみ、あらためて全損保日勤外勤の仲間ということをあの時強く感じました。

神戸分会は1月17日にペアーレ神戸にて、支部・中四国の来賓を迎え震災総会を開催しました。

冒頭、震災当時のビデオを見て、改めて自然災害の恐ろしさが思い起こされ、震災により亡くなられた6433名の人々に対し黙祷をささげました。出席組合員からは、支社移転、嘱託更改や新制度提案等多くの問題や疑問が出され、活発な意見交換を行い、支部からも現状報告を受けました。私たちは震災より10年目の今もあの時の苦しい思いを忘れずにいますが、震災総会としてはここで節目として一区切りをつけ、抱える課題に取り組んで行かなければならないと考えます。

総会終了後の交流会においては、金沢・京都・大阪分会の各組合員9名を加え、交流をはかり意義深いものでありました。10年を振り返りあらためて全国の仲間へ感謝申し上げます。これからも共にがんばりましょう。